

県政モニターからの提案に対する県施策への反映状況
(星空への関心を高める取組について)

県政モニターからの提案		県施策への反映状況
【提案①】情報発信・ブランド化の促進		
1	Instagram等のSNSを活用し、視覚的に訴えかけるような情報発信を行う	星取県の公式SNS(ツイッター、Instagram)について、より注目度が上がるようアイコンやプロフィール欄を充実させ、イベントの告知だけでなく星空の写真投稿の割合を増やしたり、「#感動」「#癒し」など検索に引っ掛かってより多くの人の目に留まるようハッシュタグを工夫する。また、SNSを活用した写真コンテストや景品を組み合わせたイベントを継続する。
2	星取県のロゴなどを活用した広告を推進するとともに、星空情報の発信を強化する	有名観光地、食べ物などの観光資源に星空を結び付けて広告するほか、自然と目に留まるように「CATCH THE STAR 星取県」のロゴや星の写真、星取県ウェブサイトのQRコードをポスターやチラシ、土産物のパッケージ等に入れる。また、星空マップの星空スポット別にアクセスの良さや安全度、星空予測、雲の予測レーダー、国立天文台ウェブサイト「今日の星空」の情報等を提供したり、観測スポットにQRコードを設置し、観測できる星空や天体の説明ができるシステムの開発など、星空情報の発信を強化する。
【提案②】誘客上の課題解決及び県外からの誘客を目的とした観光企画の実施		
3	天候に左右されない星空体験や多目的での観光客を取り込む誘客手法を検討する	雨天の日にも楽しめるようなイルミネーションやプロジェクトマッピングといった天候に左右されない方法で星空の景色をPRしたり、温泉宿泊者向けのツアーを企画し宿泊地から星空スポットまでの送迎バスを出すなど、他の目的で観光に来た人をターゲットとして取り込めるような観光プランを検討する。
4	安心して楽しみながら星空観測ができるよう星空スポットの整備を進める	星空スポットは市街地から離れた場所にあったり山の上など街灯がない場所が多く、個人で訪れる場合に防犯面から敬遠されることもあるため、駐車場や案内看板を設置したり防犯灯や間接照明を整備するなど、可能な範囲で星空スポットの整備を進める。また、星空はスマートフォン等で綺麗に撮影することが難しいため、観光客が綺麗な写真を撮影できるようなサービスを提供したり、イベントや催し物の開催により星空を観ることにプラスした体験を提供する。
【提案③】県民に星空に触れてもらうための取組の強化		
5	星空スポットでスタンプラリーを開催する	県民が星と触れ合う機会を増やすため、鳥取砂丘など星が綺麗に見えるところや星にゆかりがあるスポットを回るスタンプラリーを開催する(例えばスタンプ数に応じてプレゼントを用意するなど、子どもも楽しめるように)。
6	プラネタリウムを使った取組を強化する	天候に左右されない啓発として、東部のさびアストロパーク、西部の米子市児童文化センターと県に2か所設置されているプラネタリウムが有効に活用されるよう、星空の魅力を発信する拠点として周知を強化する。またアフターコロナに向けて、県が所有する移動プラネタリウムなどを用いて病院などで出張プラネタリウムを実施する計画をたてる。
7	県民の日常生活に溶け込むような商品を開発する	日常的に星空に触れる機会を増やすため、県民の日常生活に溶け込むような商品を開発する(具体例:カレー、金平糖、星の形の氷菓子など)。商品を作るに当たっては、コンビニエンスストア等の大手メーカーとスイーツを共同開発する、鳥取砂丘や大山といった既存の観光スポットとのコラボ商品を開発するなど、話題性があるよう工夫する。
8	星空をテーマにした絵画や工作、料理や菓子のコンテストを開催する	小中学生向けに、工作や絵画・ポスター又は読書感想文など、星空をテーマにしたコンクールやコンテストを開催し、子世代・親世代の関心を高める。また、鳥取県特産の食材などを使った料理や和菓子のコンテストを実施するなど、多様な手法により県民が星空を自分に結び付けて、楽しみながら考える機会を提供する。

県政モニターからの提案		県施策への反映状況	
9	SDGsと星空環境保全を結びつけた情報発信を行う	<p>星空の情報を単独で発信しても、もともと興味がある人にしか届かない状況のため、近年鳥取県でも急速に認知度や関心度が高まっているSDGsと星空環境保全を結び付けて星空の情報を発信することにより、SDGsに関心がある県民へのアプローチが図れると考える。光害防止、大気汚染防止など、美しくクリーンな星空を守るための取組をSDGsに結び付けて発信することが効果的と考える。</p>	<p>【環境立県推進課】 ■令和4年度政策戦略事業「鳥取県星空保全条例制定5周年記念事業」のSDGsの位置づけも「質の高い教育を」という整理であり、今後の事業実施において発信内容を工夫して対応する。</p>
【提案④】星空の魅力を伝え、広げる人材の育成			
10	子どもを対象とした星空学習や星空体験教室を実施する	<p>子どものうちから鳥取県の星空に触れる機会を持ち、身近に感じられる土壌を醸成することにより、星空の魅力を広める人材の裾野を広げることが重要であることから、小中学生の授業で県の星空を紹介したり、宿泊学習や修学旅行で星空観測を行うなど、子どもを対象とした星空学習や星空体験を実施する。</p> <p>また、ボーイスカウト・ガールスカウト連盟やこども会などの団体と連携することにより、団体が行うイベント等に星空観測や学習の時間を組み込んでもらいやすくなり、星空に触れ合う機会を増やすことにつながると考える。</p> <p>子どもを対象とした取組により、親を含めた家族にも星空への関心が広がることを期待される。</p>	<p>【環境立県推進課】 ■当課が所有する天体望遠鏡を希望に応じて無料で貸し出す等、子供たちをはじめ多くの県民が本県の星空に親しんでいただけるよう取り組んでいる。また、貸出案内チラシを公民館、天文施設等へ配布しており、ボーイスカウト、ガールスカウト連盟にも働きかけを行う。 ■令和4年度「鳥取県星空保全条例制定5周年記念事業」の中で、子供たちの宇宙への関心や美しい星空環境の保全に対する意識を醸成することを目的に、宇宙飛行士によるオンライン授業の実施を既に計画している。(JAXAの審査により実施可否決定)</p>
11	星空の魅力を伝えられる人材を星空学習等に派遣できる仕組みをつくる	<p>県内の学校や団体等が星空学習をしたいときにスムーズに実施できるよう、県民が講師の情報にアクセスしやすい環境を整える必要がある。鳥取県でも星空案内人が誕生したことを受けて、星空案内人など星空の魅力を伝えたり教えたりすることができる者を講師として登録し、県が求めに応じて紹介又は派遣できる仕組みをつくる。</p>	<p>【環境立県推進課】 ■地域の星空観察会等で星空を案内できる人材の育成を目的に、令和3年度から星空案内人資格認定講座を開始した。星空観察に関する基本的な専門知識と技能を備えた10名の星空案内人(準案内人)が誕生し、今後の活動が期待される。 また、令和4年度にも同事業を実施する予定で、引き続き人材育成に取り組んでいく。</p> <p>【観光戦略課】 ■星空案内人材育成 予算額:500千円(世界に誇れる「星取県」づくり推進事業の内数) 全国で成功している星空観光プログラムのガイドを招聘し、宿泊施設や観光事業者がそのノウハウを学ぶ場を提供することにより、県内の星空体験メニューの充実を図ることとしている。</p>
12	県民が一丸となった星空保全活動を展開する	<p>岡山県美星町が「星空保護区」をめざして官民連携のクラウドファンディングを行ったように、鳥取県でも県や市町村・県民や地域が一丸となった星空保全活動を展開していく必要がある。</p>	<p>【環境立県推進課】 ■「星空保護区」認定には、まさに地域が一丸となった星空環境の保全と活用の取組が長期に渡って必要である。町・村、ひいては地区のような小さな単位からこうした活動がスタート、定着し、他地域へも波及するよう引き続き啓発活動を行っていく。</p>